

広島藩お抱え絵師 岡岷山の日記と たど 絵図で辿る峡谷、秘湯の旅

岡岷山の「都志見往来日記・同諸勝図」を御存知ですか。
この本の現代語訳のテキスト「岡岷山の日記と絵図」をめくりながら、
湯の山・湯来を中心に江戸時代寛政期の広島を辿ってみませんか！！



出典：都志見往来日記・同諸勝図(広島市立中央図書館所蔵)

岡岷山の紹介

岡岷山は江戸時代後半の広島を代表する画家です。初めは、広島藩歩行組の絵師でしたが、その後七代藩主浅野重晟に重用され「絵師御用向」として、藩命による絵画を制作し活躍しました。

広島藩領内の滝を調査してまとめた「芸備諸村瀑布図」のほか、「厳島図」「熙春園図」など各地の名勝や庭園を描いています。



© 甲斐 さゆみ

開催日：10月22日(土) 14:00~15:30

対象：どなたでも
定員：50名(要申込。先着順)
講師：郷土史家 佐々木 章さん
(別府大学文学部非常勤講師)

会場：南区民文化センター 3階大会議室A
参加費：無料

申込開始：10月1日(土) 9:00から受付

申込み先：南区図書館の窓口か、電話で
電話 251-1080

※申込に際しての個人情報はこの催しのみで使用し、他に提供することはありません。

……「都志見往来日記・同諸勝図」とは……

岡岷山は、寛政9年(1797年)に、広島城下を出発し五日市、湯来、筒賀、加計を經由して北広島町都志見の駒ヶ滝に到り、安芸太田町澄合から川船で城下に帰る7泊8日の旅をしました。

岷山は、旅の紀行文と道中で写生した37の景勝図を二冊本に仕立て、藩主浅野重晟に提出し、「都志見往来日記・同諸勝図」として現在に伝わっています。

テキスト「岡岷山の日記と絵図」は、同書を佐伯区図書館 湯来河野閲覧室が現代語に訳して発行したものです。

公益財団法人広島市文化財団 10月の休館日：3日(月)、11日(火)、17日(月)、24日(月)、31日(月)

共催 南区図書館 (南区比治山本町 16-27 南区民文化センター内)
佐伯区図書館 湯来河野閲覧室 (佐伯区湯来町大字和田 353-1)



© 甲斐 さゆみ